



第4戦

FUJI GT 300km RACE

富士スピードウェイ

決勝

8月2日(日)

天候: 雨/曇 コース状況: ウェット/ドライ

2026年SUPER GTシリーズ第4戦は、8月2日に富士スピードウェイにおいて300kmレースが行われた。この日も朝から気温は上がりグリッドウォークの最中には大粒の雨が降り出した。コースもウェットコンディションになったことからセーフティカー(SC)スタートとなったが、SCが外れバトルが始まった直後にアクシデントが発生。すぐさま赤旗中断となり、35分後にレースはSC先導で再開となった。HYPER WATER INGING GR86 GTは11位スタートから7位まで順位を上げフィニッシュ、9ポイントを加算しポイントリーダーと同点のシリーズ2位へ順位を上げた。

決勝：7位



決勝日の2日は12時から20分間のウォームアップ走行が行われた。まずはト部和久がコースインし堤優威に交代。ベストタイムは2番手で、11番グリッドからの追い上げを期待させる走りだった。

全車がコースインしグリッドウォーク真っ只中の13時ごろ大粒の雨が落ちて来てコースは完全ウェットコンディションとなったことから、決勝レースは13時30分にSC先導でスタートした。その間に路面は乾いた部分と濡れた部分が混在するコンディションとなったが、徐々に乾いていくことが予想された。4周完了でSCが隊列から外れバトル開始となったホームストレートで、GT500車両どおしが接触クラッシュする大きなアクシデントが発生。レースは即時に赤旗が掲出され中断となった。

35分後にレースはSC先導で再開。9周が完了した時点でバトルが始まった。スタートはト部が担当。降雨により路面温度が下がってしまったことと思うようなペースで走ることではできなかったが、11周目の1コーナーで2台をかわし9位へ。そこから再び雨が落ちて来たがコースを濡らすまでにはいらず。しかし路面温度が下がりペースが鈍った19周目には10位へポジションを落とすことになった。25周目から早めのピットインを行う車両もあり、27周目には7位、32周目には6位まで順位を上げてピットインした。

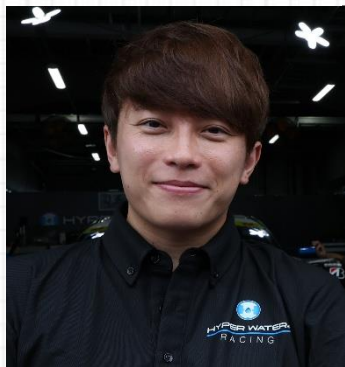
サクセスウェイトが50kgを超えたことで今回から給油リストラクターの制限を受けることにより、給油時間が5秒ほど余計にかかるようになり、その間に数台の車両に先行を許すことになった。交代した堤は19位でコースに戻り、他の車両がピットインするたびに順位を上げ、ピット作業が落ち着いた44周目には9位へ順位を戻した。46周目には1台をかわし8位、そして7位の車両に追いついて行ったが、車両のマイナートラブルもあり一旦1.8秒差まで間隔が開くことに。それでもファイナルラップの1コーナーでパスして7位でフィニッシュ。9ポイントを獲得しポイントリーダーと同じ40点のランキング2位に順位を上げた。

次のレースは3週間後の8月22～23日、鈴鹿サーキットにおいて300kmレースとして開催される。



HYPER WATER®





ドライバー 堤 優威

「最後の1コーナーで抜いて7位になりました。その前の最終コーナーで抜いたのにストレートで追い抜かれてしまい、さらに抜き返しました。相手に5秒追加のペナルティが出ているのを知っていたら無理する必要もなかったのですが、予選で前に行けていたら表彰台を狙えたと思います。今回のレースでは左側のタイヤ2本交換ということも考えられたと思います。もっと臨機応変に対応できるよう、チームとミーティングをして対応力をさらに強くしていきたいです」

ドライバー ト部 和久

「今回選んだタイヤは路面が暑ければポテンシャルを発揮できたのですがすごく楽しみだったのですが、日がかげったり序盤雨も落ちて来たのでそこでのロスが大きかったです。また給油リストラクターのために5秒ほどロスがあり、今回は流れがありませんでした。苦しい中でも7位という結果は悪くないと思いますし、チーム一丸となってすべてを出し切ったのではないのかなと思います。ここからは“チリつも”で粘り強く戦っていきます」



監督 加藤 寛規

「今日はスタートから荒れてすごく難しいレースだったのですが、チームとしてやれることはやれました。こちらに運がなかった部分もありましたが、それでも追い上げるレースができましたし7位を取れたので、11位という予選順位と給油リストラクターのことを考えると悪くないリザルトでした。次の鈴鹿はクルマ的に相性も良いので頑張りたいと思います。今回のポイントがシリーズ終盤に効いてくると思います」

